

長島氏、民進離党へ

民共連携で執行部批判



長島氏は産経新聞の取材に「共産党との選挙共闘は譲れない一線だと思ってきたが、(党執行部は)それを越えてしまった。熟慮の末、離党する決断をした」と語り、「民共連携」に傾く連舩執行部を批判した。

10日に記者会見する。民進党の現職国会議員の離党は初めて。

民進党の長島昭久元防衛副大臣(衆院比例東京)は7日、東京都内での支持者との会合で、近く離党する意向を表明した。

関係者によると、当面は無所属で活動。小池百合子都知事が事実上率いる地域政党「都民ファーストの会」との連携も模索する。

民進党では、東京都議選(7月2日投票)の公認予定者36人のうち7人が離党を表明するなど、連舩代表の地元である東京で党勢低迷が際立っている。「離党ドミノ」が国会議員にまで波及したことで、党執行部は大きな痛手を負った。

長島氏は当選5回。党内グループ「国軸の会」を率い、安全保障政策に精通した保守派論客として知られる。昨年9月の党代表選では、共産党との関係の見直しを掲げて出馬を模索したが、必要な20人の推薦人を確保できなかった。

党内には、このほか複数の国会議員が離党を検討しているとの臆測もあり、執行部は警戒を強めている。